

第9回杏林大学 CCRC フォーラムで基調講演を行いました (2021/3/13)

テーマ：健康でレジリエントな社会を作るには
場 所：杏林大学、オンライン（三鷹市, 日本）

2021年3月13日（土）に、杏林大学 CCRC 研究所が主催するフォーラム「一東日本大震災から 10 年—『災害に備えるまちづくり』を考える」において、災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の江川新一教授が基調講演を行いました。

杏林大学 CCRC (Center for Comprehensive Regional Collaboration) 研究所は、文部科学省「地（知）の拠点」整備事業のひとつとして新しい都市型高齢化社会における地域と大学の統合知の拠点をめざしています。CCRC 研究所発足以来「災害に備えるまちづくり」を研究の一つの柱に据え、様々な見地から研究調査を進めてきました。本フォーラムは、東日本大震災という未曾有の大災害の発生から 10 年を迎えるにあたり、被災地における防災・復興の経験と教訓をあらためて学ぶことにより、三鷹市、八王子市、羽村市、武蔵野市など都市における自然災害対策への処方、また災害が地域にもたらす課題を多角的な視点から考える機会とすることを企図しています

江川新一教授は「長寿社会：健康で災害にレジリエントな社会をつくるには」と題して基調講演を行いました。災害で使用される用語の定義を明確にし、ハザードや暴露、脆弱性を小さくし、対応能力を大きくすることで災害リスクを小さくすること（防災）が可能になること、過去の災害を通してわが国の災害医療体制が構築され、東日本大震災で浮かび上がった医療ニーズの変化に対応するため、災害医療体制の強化が図られていること、災害リスクと平均寿命は相関しており、ふだんの医療アクセスがよく平均寿命が延びているわが国の災害リスクは小さいことから、普段の保健医療福祉を充実させることが災害に強い社会をつくることになることなどを説明しました。

東日本大震災をさまざまな面から振り返るために、パネルディスカッションが行われ、宮城大学で市民活動とまちづくりに携わっている佐々木秀之氏、石巻市復興政策課長の今野正太郎氏、石巻赤十字病院産婦人科部長の吉田祐司氏がそれぞれの立場から話題提供し、総合討論として、① 東日本大震災を振り返り、首都直下型地震に備える首都圏への視座。防災で大学に期待するもの、② 復興過程における課題と難しさから、今後の災害時における教訓。復興過程で大学が期待されるものについての議論がなされました。また、参加者から、③ 東日本大震災の経験から、災害発生時に、高齢者や障がい者等いわゆる災害弱者に適切に命を守るための情報を伝える方法について、④ コロナ禍にあって、3 密を避けることが求められる中、感染症対策の観点からの避難所の望ましい在り方と在宅避難の際の留意点についての質問があり、実際に避難を想定するときの着眼点についての議論がなされました。参加していた三鷹市の防災担当者や地域の防災リーダーから、災害に強いまちづくりに関する思いと課題も共有されました。

南海トラフ地震や首都圏直下型地震、そして新型コロナウイルスパンデミックをはじめとする複合的で想定が困難な災害に対しても、ひとつひとつできることを積み重ねていくことで、災害にレジリエントなまちづくりを進めることができます。